

「男、突っ走る！」

第95回

第一稿

作・壽倉 雅

登場人物

木内 雅也 (24)

『オフィスツリーイン』代表

国枝 佐代子 (59)

『スリジエネ』総合プロデューサー

国枝 茉奈 (27)

佐代子の娘

山中 敦夫 (44)

劇団主宰者

本田 所子 (63)

市民映画プロデューサー

阿村 晴臣 (54)

音楽プロデューサー

橋岡 武久 (38)

振付師

住吉 真由美 (42)

舞台俳優  
ダンス講師

野倉 浩平 (22)

『スリジエネ』メンバー

藤田 昇海 (19)

『スリジエネ』メンバー

山森 直茜 (23)

『スリジエネ』メンバー

大坂 美央 (17)

『スリジエネ』メンバー

熊瀬 怜奈 (18)

『スリジエネ』メンバー

河辺 真恵 (22)

『スリジエネ』メンバー

阿川 綠 (30)

『スリジエネ』メンバー

麦沢 愛梨 (20)

『スリジエネ』メンバー

坂本 寿梨 (20)

『スリジエネ』メンバー

1 南公民館・大会議室

浩太、昇平、直海、茜、美央、怜奈、  
真理恵、緑、愛花、寿梨、橋岡が通し  
稽古をしている。

演出席で見ている佐代子、山中、阿川、  
住吉——音響卓でタイミングに合わせ  
て音出しをしている雅也。

N 「いよいよ、ミュージカル本番まで二週間  
を切りました。ブロードウェイミュージカ  
ルをモチーフにした今回のミュージカルは、  
昨年のように七夕の物語となり、コウタが  
彦星役、ナオが織姫役、ミオとジュリが猫  
役、ショウが家来役、とみーとミドリさん  
とマリエとレイナが女官役、そして昨年同  
様はっしーさんが天帝役となりました。そ  
して脚本演出が国枝さん、舞台監督がヤマ  
さん、阿川さんが照明オペレーター、そし  
て僕が音響オペレーターとなり、それぞれ  
の役を全うできるように稽古を重ねていき  
ました」

×

×

×

休憩中。

雅也がメンバーたちに、パンフレットを見せている。

雅也「当日パンフの原稿、みんな内容とか自分の名前、確認して。もし修正があったら、今日中に教えて」

一同「はい」

と、回覧していく——緑、パンフレットを見ると、

緑「うっちー」

雅也「はい」

緑「ちよつと、お願いがあるんだけど」

雅也「はい？」

緑「キャスト紹介とコメントは問題ないんだけど、スタッフ欄のところで直してほしい」

雅也「何かありました？」

緑「（資料を見ながら）ここ、演出助手に私の名前が書いてあるけど、これ、私の名前

消してくれないかな」

一同、雅也と緑を見る。

雅也「え……でも、今回の『SING!SING!SING!』

の演出助手は、ミドリさんですよね……」

緑「演劇を経験してる私としては、この作品の演出助手をやったっていう記録は残したくないの」

雅也「ミドリさん……」

愛花「相当ですね、ミドリさんがそこまで言うなんて」

緑「しよがないでしょ。演劇経験者がこの作品見て、演出助手を誰がやったのかわかってパンフレット見たときに、私の名前が載ってるのはどうも嫌で」

雅也「そうですか……」

浩太「うっちー。これが、今の現状なんだよ」

雅也「……」

直海「国枝さんの演出は、どうしても独りよがりになっちゃってるの。演出助手のミドリさんの存在なんて、今やあってないよう

なものなんだから」

雅也「……」

緑「とにかく、当日パンフ、演出助手の名前から私の名前は絶対消しといてね」

雅也「はい……」

## 2 ファミレス（夜）

雅也、山中、直海、寿梨が話している。

雅也「まさか、名前消してくれるなんて言われるとは思わなかったわ」

直海「うちー、音響オペやっててさ、全体雰囲気とか作品のクオリティ、何とも思わ

ないの？」

雅也「俺はほら、演劇祭の時にまともな演出できなかったでしょ。だから、人の演出を批判する資格なんてないの。本当に大変なんだから、舞台の演出って……」

寿梨「けど、うちーと国枝さんじゃ経験値が違うじゃん。あの時はさ、うちーも初めてだったし、私も演技そのものは初めて

だったから、手探りみたいになることもあった。でもさ、うちーはみんなと一緒に作りあげる気持ちを大事にしてくれたじゃん。でも国枝さんは、自分の頭の中で構想があるから、その通りに行かないと納得してないみたいだね」

雅也「なるほどね……」

山中「みんなが国枝さんに失望してるのは、俺やうちーに対して散々意見を言ったからなんだよ」

雅也「どういうことですか？」

山中「メンバーたちは、国枝さんの演出の経験がこれまで当然だけどなかっただろ。二十年以上演劇をやってきた俺や、脚本を仕事にしてるうちーに意見を言うってことは、国枝さんの脚本や演出は相当すごいものだって、メンバーたちは期待してたんだよ。でも、いざ蓋を開けたら全然ダメ。とみーやコウタが、神奈川に行くことを口実にメンバーを卒業するって言ってるけど、

内心では国枝さんの演出についていけない  
ってというのがあったんじゃないかな。運営  
会議の時だって、結局は決まったことの申  
し送りばかりだっただろ。まあ『神様が  
願うまで』の稽古に参加できなくて、オー  
ディションに断念したのは、実際問題、神  
奈川と愛知の往復が大変だっというのはい  
るかもしれないけどな」

雅也「そうですか……」

山中「『神様が願うまで』の脚本と演出を俺  
が担当するのは、地元民としてこれほど栄  
誉なことはないって思ってる。だからこそ、  
作品に専念しようと思っただけ。どっちにせ  
よ、運営の誘いはなかったけど」

雅也「国枝さんとしては、運営は国枝さん自  
身と一緒にやりやすい人を選んだんですよ。  
田所さんは、市民映画のプロデューサーを  
一緒にやってきた人だし、茉奈さんってい  
う娘さんも入れて、それで基本イエスマン  
の僕が入って。そこにヤマさんが入ってみ

てくださいよ。運営が上手く回るわけがないじゃないですか」

寿梨「分かってんじゃない、うちーも」

雅也「そりゃ、結成当時からひたすら運営やっつけてくるからね」

山中「ただ、一つ心配なのが、『神様が願うまで』の稽古中に、俺と運営陣が揉めないかってことだよ」

直海「ああ、確かにその可能性もありますね」

雅也「仲良くしてくださいよ。次からは、僕はメンバーとして復帰しますから、今以上に出演者の空気感が分かります。殺伐となったら、きっと悪い空気は広まっちゃいますからね」

山中「そこを上手く潤滑油となるのが、うちーじゃないか」

雅也「さあ、どうなりますことやら。今回は、ヤマさんの劇団の方も来られるでしょう。それに、住吉先生のダンス教室の生徒さんも。三十人近い出演者が揃うと、派閥とい

うかいろんなグループができるでしょう、学校みたい。そうになったら、嫌でも僕は中間的立場になって、キャストと運営のパイプ役になると考えると、パイプというよりサンドバツクになりそうな気がするんですよね」

寿梨「頼りにしてるよ、うちー」

雅也「ちよつとジュリ……」

寿梨「私は、うちーが上手いことやってるのを知ってるから。バンドだって、うちーがマネージャーやってくれたおかげで、私たちがどれだけ助かってるか」

直海「本当、それは言ってる」

山中「あと二週間か……。俺も、バンドの時は見に行くわ」

直海・寿梨「お待ちしてます」

### 3 商店街（二週間後）

夏祭りが開催され、家族連れや学生、子ども、カップルなど、老若男女様々

な来場客で溢れている。

N 「そして二週間後。毎年恒例、商店街の夏祭りが開催されました」

4 レンタルスタジオ・一室

浩太、茜、昇平、直海、寿梨が演奏をしている——傍らに雅也。

N 「当日の朝、バンドメンバーたちは名古屋のレンタルスタジオで、最後の通し練習をしていました」

5 同・駐車場

雅也の車に楽器を詰め込んでいる雅也、  
浩太、茜、昇平、直海、寿梨。

浩太 「よし、行くか」

茜 「いよいよ本番だね」

昇平 「頑張るか」

直海 「思いつきり楽しもうね」

寿梨 「もちろん」

雅也 「じゃあ、俺はこのまま会場裏の搬入口

に向かうから。もしみんなのほうが先に着いたら、搬入口で待ってて」

浩太「出演者の乗り降りも、そこでできるんだよな」

雅也「車のボンネットに、出演者だっていうのが分かる紙を置いとけば良いよ。とみーに、紙渡したよね？」

茜「あ……」

浩太「まさか……」

茜「机の上におきっぱだ……楽器のことで頭いっぱいだった」

雅也「そんなこともあるかと……。　（と鞆からプリントを出して）紙、コピーしといた」

茜「うっちー……！」

浩太「さすがだわ！」

雅也「（プリントを渡して）これを車に置いとけば大丈夫だから」

茜「ありがとう」

雅也「じゃあ、行こう」

一同「オッケー！」

## 6 道

雅也の運転する車が走っており、その後ろを茜が運転する車が走っている。

## 7 中央交流センター・搬入口

浩太、昇平、直海、寿梨が待っている

——雅也の車が到着する。

雅也、車から降りてくると、

雅也「あれ、そっちのほうが早かった？」

浩太「さすがは茜だよ。地元民だから近道知ってるんだよ」

雅也「しまった。俺が後についてきや良かった。よし、運ぼう」

と、茜が走ってやってくる。

茜「ちょうどうちー来たね」

雅也「今今着いたところ」

茜「時間的にもちょうど良かったね。そのまま会場まで運んで良いんだっけ？」

雅也「うん。ステージの裏に」

茜「了解」

一同、楽器を運んでいく。

8 同・ホール

観客席に座っている佐代子、茉奈、山

中、本村、田所。

茉奈「次だね。コウタたちのバンド」

佐代子「楽しみね」

本村「よく頑張るね、みんな。すごいわ」

田所「明日もあるしね。さすがは『スリジェ

ネ』のメンバーたち」

山中「出演するメンバーも、それを支えるマ

ネージャーをやったうちーもすごいよ」

本村「ああ、マネージャーうちーがやって

るんだ」

山中「ひたすら手伝いに徹してるみたいで」

本村「そうなんだ」

と、上手から雅也、浩太、茜、昇平、

直海、寿梨がそれぞれ楽器を運んでき

て、準備を始める。

その様子を見守るように見つめている  
佐代子、茉奈、山中、本村、田所。

9 同・ステージ裏

スタンバイをしている雅也、浩太、茜、  
昇平、直海、寿梨。

雅也「じゃあみんな、頑張ってるね。俺、ステージから見守ってるから」

茜「うっちー。マネージャーやってくれて、  
本当にありがとう。こうしてステージに出  
れるのは、うっちーのおかげで」

雅也「そんなことないって。俺はただ、みんなを支えれたら、それで」

茜「よし、円陣組もう」

と、一同円陣を組む。

茜「（小声で）みんな頑張ろうね。行くぞー」  
一同「おーッ」

10 同・ステージ

後部の扉が開き、雅也が観客席に座る——近くにゐる佐代子、茉奈、山中、本村、田所。

ステージ上で準備をしている浩太、茜、昇平、直海、寿梨。

直海「みなさん、こんにちは。『アステリズム』です。それでは、まずオープニングアクトからお聞きください」

直海、ドラムの昇平に合図を送る——昇平のカウントで、それぞれ演奏を始めるギターの茜、ベースの浩太、キーボードの寿梨。ベースを弾きながら歌い始める直海。

その演奏を見ている雅也、佐代子、茉奈、山中、本村、田所。

## 11 ファミレス

雅也、浩太、茜、昇平、直海、寿梨がドリンクで乾杯をする。

一同「かんぱーい」

茜「いや、本当にみんなお疲れ様」

浩太「楽しかったわ」

昇平「練習した甲斐があるっていうのは、こういうことを言うんだろうな」

直海「もう今日が本番で良いね」

寿梨「それな」

雅也「いやいや、みんな。本当の本番は明日だから」

浩太「いいよ、今日が本番で」

雅也「（苦笑して）コウタ……」

茜「明日が終われば、私たちも卒業よ」

浩太「そうだな」

雅也「またメンバーがいなくなっちゃうね。レイナは大学受験勉強に専念するから活動休止するし、マリエも仕事の都合がつかなくなってきたから『スリジェネ』の活動はできなくなるし、ショウも名古屋の演劇に専念するもんね」

寿梨「大分減っちゃうね」

直海「私も、『神様が願うまで』が終わった

ら、メンバー卒業しようかな」

寿梨「私も」

雅也「……」

浩太「うちーは、まだ残るの？」

雅也「まあ、メンバー復帰したからね。ちよ  
つとまだ分かんないかな」

茜「まずは明日だね。ようやく、解放される  
わ」

雅也「……」

直海「ねえ、みんなで写真撮ろう」

茜「良いよ」

直海、スマホを取り出して、カメラを  
立ち上げる——カメラに映るように集  
まる一同。

直海「撮るよ。はい、チーズ」

と、シャッターを押す——写真に収ま  
る一同。

12 中央交流センター・ホール（翌日）

ステージの準備をしている山中、昇平、

浩太、住吉——下手の音響席で準備を  
している雅也。

会場後ろの照明席で仕込みをしている

阿川。

住吉「うっちーさん。ダンスの音、一回出  
てくれますか」

雅也「はい」

と、音響卓のスイッチを押し、音楽が  
流れる。

住吉「（山中に）ちよつと音小さいですかね」  
山中「うっちー、もう少し大きくして」

雅也「はい（と調整をする）」

### 13 同・楽屋

直海、茜、美央、怜奈、真理恵、緑、  
愛花、寿梨が衣装を着てメイクをして  
いる。

美央「ちよつと濃いかな？」

怜奈「うーん」

美央「大丈夫かな」

怜奈「ちよつと貸して」

と、美央のメイクの手伝いをする。

14 同・ホール

観客席に観客たちが、ぞろぞろと来ている。

雅也が下手の音響卓に、落ち着かない様子で座っている——衣装を着てスタンバイをしている浩太、怜奈、橋岡。

橋岡「うっちー、どうした？」

雅也「いや……ちよつと緊張しちゃって……」

浩太「音響だろ？」

雅也「簡単に言わないですよ。タイミング次第で、作品の雰囲気壊れちゃうんだから」

真理恵「うっちー、ファイト」

雅也「ファイト」

× × ×

照明席の阿川が、舞台上の照明を明るくする。

阿川「（呟いて）みんな、頑張れよ」

雅也が音響卓のスイッチを押し、音楽が流れる。

上手と下手から、出演者が登場し、ダンスを踊っている。

観客席で見ている佐代子、茉奈、本村、田所、住吉。

× × ×

舞台上で芝居をしている美央、怜奈、真理恵、愛花、寿梨。

下手で控えている雅也と山中。

山中「（小声で）うっちー、音きもーち下げ  
て」

雅也「はい（と音の調整をする）」

× × ×

カーテンコールとなり、舞台上で踊っている浩太、浩太、昇平、直海、茜、美央、怜奈、真理恵、緑、愛花、寿梨、橋岡。

歌に合わせて手拍子をしている下手の雅也と山中——観客席の佐代子、茉奈、

本村、田所、住吉。

曲が終わり、一同決めポーズをすると、

茜「本日は、ありがとうございました！」

一同「ありがとうございました！」

と、礼をする——拍手をする観客たち

と、雅也、山中、佐代子、茉奈、本村、

田所、住吉、阿川。

N「バンド発表とミュージカルという、怒涛

の二日間が終わりました。そしてこの日、

コウタ、とみー、マリエ、シヨウはメンバ

ーを卒業し、レイナは活動休止となりました

た。そして翌週から始まる『神様が願うま

で』の稽古から、僕はメンバーリーダーと

して復帰することになるのです」

つづく